

最新熱可塑性ポリアミド樹脂の可能性を探る

大倉 雅夫

熱可塑性弾性樹脂が 2007 年に認可を受けて以降、多種類の熱可塑性樹脂が販売されており、それぞれの材料の特性を生かした機能的設計法なしに、ノンメタルクラスプデンチャーの作製が行われてきたように思われます。

その結果、耐久性に劣り、口腔内組織に悪影響を与える暫間的補綴物であるという考え方が多いのも現状です。

多様な熱可塑性樹脂の中でも、吸水性が低く、モノマーフリー、物質的安定性に優れ、リジットでありながら壊れにくい特性をもっているものを使用して、樹脂クラスプの基本設計、構造設計を。さらに 7 年間のクリニカルケースから考察、考案した患者様の ADL(日常生活動作)を考慮した 2 方向回転着脱デンチャー作製法と機能、審美とさらなる進化を紹介いたします。